

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第6回女性参画推進専門委員会の概要について

1 開催概要

- (1) 日 時 平成28年7月15日(金) 14:00~16:00 岩手県水産会館大会議室
- (2) 出席者 委員12名(2名欠席)
- (3) 審議事項等
 - ① 復興に係る男女共同参画の取組について
 - ② 「いわて復興レポート2016」について
 - ③ 復興実施計画(第3期)の方向性について

2 審議概要

(1) 復興に係る男女共同参画の取組について

県の取組の説明のほか、復興庁から国の取組について情報提供いただいた。

[菅原委員]

- ・熊本地震について、東日本大震災から岩手で積み上げてきたものがたくさんある。その経験を生かして国も迅速に対応して欲しい。

(2) 「いわて復興レポート2016」について

「いわて復興レポート2016」は、委員からの意見を踏まえ、所要の修正を行った上で、7月22日開催の復興委員会に提出することとした。

[村松委員]

- ・計画の進捗と復興の実感にはかなりの温度差がある。生活の基礎となる住宅についても、被災者個々に課題が違ってきているのではないかと。専門知識を持った人のアドバイスも重要である。相談に行くことができないような人のケアなど、しっかりと寄り添って支援する体制が重要である。

[手塚委員]

- ・震災後、漁業を再開しても辞めた人もいる。また、仮設店舗から本設店舗に移行していない人もいる。そういった人も把握して、課題として認識して欲しい。

[両川委員]

- ・人口流出が大きな課題。戻ってくる人か、移ったところで定着する人か、見込みを立てて検討していくべき。人口が少ない中でどのようにやっていくかのビジョンが見えるといい。

[神谷委員]

- ・復興に関する意識の沿岸地域での地域差について、その理由を把握して、課題へ反映することが重要。ヒアリングなどで丁寧に理由の掘り起こしをすると第3期に反映できるのではないかと。

[菅原委員]

- ・昨年度、本委員会の「女性参画による被災地のなりわいの再生ワーキンググループ」で調査報告書を取りまとめたので、レポートのトピックス等に盛り込むべき。

(3) 復興実施計画（第3期）の方向性について

復興実施計画（第3期）の方向性についても、委員からの意見を踏まえ、所要の修正を行った上で、同じく7月22日開催の復興委員会に提出することとした。

[平賀委員]

- ・人口減少問題は大きい。地元を離れた方が、出来るだけ若い時期に戻ってくる事が出来るように、**他の地域で培った能力を地元で生かすことができる仕組みや、人と人とのつながりで呼び戻す具体的な方策**が必要ではないか。

[山屋委員]

- ・女性がリーダーになったり、起業する場合、男性と女性とは考え方が違う部分があり、**支援や助言も違う細やかさが必要**であり、対応して欲しい。

[神谷委員]

- ・復興計画がすべてうまく行っているわけではない。歯車を少し止めて、**新しい施策や方向性を見出すという勇気も必要**ではないか。それが、より良い官民連携の方向性に結びつくのではないか。
- ・U I J ターンをどうやって増やすかが課題。沿岸地域も保育士、看護師不足。それに着目した施策もあるのではないか。保育士、看護師の確保も出来、若い女性も入って来るといいう流れもできる。**ターゲットを決めて取り組んではどうか。**

[木村委員]

- ・沿岸出身の**県内の大学生がボランティアで沿岸を訪れている**。そういう人の意見も取り入れて欲しい。

[佐々木委員]

- ・**委員がそれぞれの場で活動**することでこの委員会の活動も広がっていくのではないか。

[盛合委員]

- ・震災から5年がたって、復興事業が終わった後のためにも、**地域づくり、コミュニティの確立**がいちばん切実で重要。

[高橋委員]

- ・女性参画を推進するためにも、もっと**現場に入り込んでの意見交換等**が必要。

[山屋委員]

- ・震災前より、女性が様々な場で活躍している。それを5年後10年後続けていくためには**サポーターが必要**。県外の人などの力も借りながら、**女性の活躍を県内全体に広めていく**ことが重要。

[両川委員]

- ・復興事業はハード面だけではなく、**ソフト面の積み重ねが人の幸せにつながっていく**ので、ソフト面にも同様に力を入れて欲しい。